住宅敷地外囲工についての居住者意識

—— 奈良市学園前住宅地における事例研究 ——

近 藤 公 夫, 前 川 京 子

Inhabitants' Feelings on their residences' Fences and Hedges

— A Case Study at residential blocks of

Gakuen-Mae New Town in Nara City —

By Kimio KONDO* and Kyoko MAEKAWA**

住宅敷地外囲の整備について造園学からする研究は、主に生垣の場合にいくつかの例がある。

しかしこの問題には、外囲自体が植物・土石材・金属等その材種が多岐に及んで単に生垣の研究を以て全般を推知し得ないことや、その観点も計画者以外に居住者のそれもあること等が考えられねばならない。

事実、外囲工を経費面から考えれば生垣の占める比重は比較的に低く、また外囲施工の意志決定における造園家の地位は居住者の助言者として低いものでしかない。

この調査研究は以上の考慮の下に従来は軽視されていた分野に新しい知見を求め、やがては庭園の全分野に及ぶ生活空間としての検討への緒を得ようとする意図により着手された。

その概要は奈良市西部の通勤住宅地、学園前、においてその全独立住宅の10%に近い戸数、200戸強、につき住宅敷地外囲の実態とこれに対する居住者の意識の調査・分析である。

なお、本調査対象家庭の家族数は平均4人強、戸主年令は平均50才強、その年収は平均200万円前後であった。調査結果において外囲工の実態については、表1に示すようにカイヅカイブキを主とする生垣と石垣が大多数で全例の各々40%弱を占め、コンクリート塀、石塀が各々5%強、金網が5%弱と云う結果を各住宅敷地の道路側外囲に見、これはより詳細に見るとコンクリート塀等のみ約15%、生垣のみ10%弱、石垣に塀等の組合わせ10%弱、石垣に生垣の組合わせ60%強等であるが、隣家境界工の生垣約35%、コンクリート塀約30%、板塀・木柵や石垣や金網の各々10%弱と云う結果とは傾向を異にしている。

つぎに表2により外囲工についての居住者意識の中で計画決定の実状を見ると、住宅設計者や知人からの示唆によるものが30%強、参考資料をもつ自主的な考案が25

%強、参考資料をもたずに自主的に考えたのが約15%、特に積極的な思考を経ないものが25%強を見、その決定形態は家族の協議によるものが50%弱、戸主によるものは30%弱と云う回答が得られた。

そして外囲工の造成目的については表3にも示す通りデザインを主とするものが50%強、境界遮断など機能を主とするものが45%強であり、また外囲工に対する所有者の所感としては満足が55%弱、不満足が25%弱で、不満足の主な理由には外観の不満が約3/10、遮断機能の不満が約2/10、管理の不満の約2/10等があげられている。

なお、管理の実態については剪定・施肥などが主で、前者は生垣がある住宅の約8/10にみられてその3/4以上は専門労働者に依頼し、後者は同じく約6/10にみられる。

また調査戸数の10%弱は塗装更新か改造等の維持管理がなされていた。

以上の実態と居住者意識とを相互に関連させて検討し結論された知見の主なものとは次の通りである。

機能的な観点からする外囲工としてはコンクリート塀等を用いる例が約15%、生垣と石垣の組合わせの例が約60%であるが、外観やデザインを重視する観点のものは各々5%弱と約80%と云う数値を表3のように示している。

外囲工の評価については表4のようにコンクリート塀等の場合に見えが悪いと云う理由から不満なものの率が高く、生垣のみの場合には境界遮断の機能が不全であり管理に手間がかかると云う理由から不満が多い。

外囲工と居住階層の関係については特に分析の資料とし得るものに乏しいが、高所得者の多い地区では石塀等、所得の低い層が多い地区では生垣の例が多い結果となり、外囲工の管理と居住階層の関係では、年収300万円平均の地区で50調査例当り5件の改修で1件当り約15万円の支出が報告され、年収200万円未満の地区では90調査例当り3件の改修で1件当り10万円弱の支出が見られた。

終りに階層別に見られる外囲工の評価では年収200万

* 奈良女子大学住居学科

** 小林住宅K. K.

円未満の地区で不満足との回答が30%強で他の2倍に達し、その最も大きい理由には外観の不良があげられている。

前述のように住宅敷地外囲工の居住者意識に関する研究は住宅庭園を生活空間として検討する緒を求めるものであるが、この小論自体はこの分野の研究の問題提起と云う意味をもつにすぎないので、ここでは単に研究資料としての公表とする。

当面の研究の深化としては、外囲工造成の意図とその手段が結果した外囲工の実態そしてその主観的ならびに客観的評価や管理の問題等、その動態的な発展に対応した分析が構想されるがこれについても今後に多くの検討を要するものとする。(44.9.17受付)

表1 住宅敷地外囲工の構造実態

材料別	生垣系	石垣系	石塀系	コンクリート塀	金網・柵	雑	合 計
分類	40	37	6	7	4	6	100%
構造別	生垣単独	塀類単独	生石垣	生塀類	塀石垣	雑	合 計
分類	7	15	54	10	7	7	100%

表2 住宅敷地外囲工の居住者意識

造成	外觀意匠	境界機能	（視線遮断）	（境界画定）	（防犯）	（ 雜 ）	合 計
目的	53	47	（ 25 ）	（ 7 ）	（ 7 ）	（ 8 ）	100%
造成	外圍既存	知人勧誘	建築家案	自己案出	無動機	雜	合 計
動機	14	6	25	39	12	4	100%
外圍工	満 足	不 感	不 満	（外観不良）	（機能不全）	（ 雜 ）	合 計
評価	53	23	24	（ 8 ）	（ 9 ）	（ 7 ）	100%

表3 住宅敷地外囲工構造と造成動機

	外観意匠	境界機能	合 計
生 垣 単 独	3	4	7
塀 類 単 独	6	9	15
生 垣・石 垣	29	25	54
生 垣・塀 類	7	3	10
塀 類・石 垣	3	4	7
雑	5	2	7
合 計	53	47	100%

表4 住宅敷地外囲工構造と居住者評価

	満 足 等	不 満 足	合 計
生 垣 単 独	4	3	7
塀 類 単 独	10	5	15
生 垣・石 垣	43	11	54
生 垣・塀 類	8	2	10
塀 類・石 垣	6	1	7
雑	5	2	7
合 計	76	24	100%

(P36より)

on growth, flowering and appreciate effect of Pansy, Salvia and French Marigold.

In this result, the suitable planting intervals for pansy was about 20cm, salvia was about 25cm and french marigold was about 20 to 25cm.

3) The third experiment was compared with responses of fresh weight on individual top organs of salvia and french marigold, influenced by planting density.

From this result, these were very poor grown on top growth by planted less than 20cm at inte-

rvals with salvia and french marigold were less than 10cm.

4) In consequence, I could evident to fit for planting density with pansy, salvia and french marigold. But the planting density will be affected by growth pattern, blanching form and flowering habits of different species and varieties. Therefore, I am going to research for characters of annual bedding plants and classification of them.

(44.6.18受付)